

令和3年度第3回 流山市環境審議会 議事要旨

日時： 令和3年12月14日（火）10時00分～12時00分

場所： 流山市役所第1庁舎3階 庁議室

出席委員：

金森有子委員、朽津和幸委員、佐藤秀樹委員、山口隆子委員、川村香純委員、須賀武司委員、新保國弘委員、井上菊夫委員、福山啓子委員、横田輝雄委員、和田登志子委員

事務局：

大島環境部長、伊原環境部次長兼環境政策課長、阿部環境政策課長補佐、近藤環境政策課長補佐兼環境政策係長、林環境保全係長、石橋主事、飯田主事

傍聴者：

1名

議題：

- ア 会長、副会長の選出について
- イ 市域における二酸化炭素会出量の再計算について
- ウ 二酸化炭素排出量の将来推計・削減目標、目標達成に向けた重点施策について
- エ その他

資料：

- 資料1 環境審議会委員名簿
- 資料2 現行計画における二酸化炭素排出量及び増減要因の分析の修正について
- 資料3 二酸化炭素排出量の将来推計・削減目標、目標達成に向けた重点施策について
- 資料4 令和3年版流山市環境白書

| 発言者 | 要旨 |
|---------------|---|
| | (議題ア) 会長、副会長の選出について (資料1) |
| 大島部長 (仮議長) | 本審議会の会長及び副会長は、「流山市附属機関に関する条例」第3条の規定により、「委員の互選によって定める」 |

| | |
|-------------------------------------|---|
| | こととしている。会長、副会長の選出についてご意見はあるか。 |
| 佐藤委員 | 会長には新保委員、副会長には金森委員を推薦したい。 |
| 大島部長 (仮議長) | 佐藤委員から、会長に新保委員、副会長に金森委員を推薦する意見が出たが、いかがか。 |
| 大島部長 (仮議長) | 「異議なし」ということで、会長は新保委員、副会長は金森委員に決定する。会長及び副会長が決定したため、議長を新保会長と交代する。 |
| 事務局 | 新保会長よりご挨拶をいただきたいと思う。 |
| 新保会長 | ただいま、会長に選出していただいた新保國弘と申します。よろしく願いいたします。地球温暖化対策は、なかなか大変なところに今差し掛かってきましたが、先程委嘱式で市長がおっしゃられていたように、792ある自治体の中の一つの流山市として、何ができるか、何を将来に託せるかということで、ご審議いただきたいと思えます。 |
| (議題イ) 市域における二酸化炭素排出量の再算定について (資料 2) | |
| 事務局 | <p>はじめに、第 1 回・第 2 回審議会での検討内容の概要を確認しておきたい。</p> <p>第 1 回の環境審議会は 4 月 28 日に開催し、審議のスケジュール及び、基本的事項の考え方ということで、基準年度や目標年度、対象とするガスの種類等について検討いただいた。</p> <p>第 2 回の環境審議会は 7 月 30 日に開催し、市域における二酸化炭素排出量の現況及び分析についてということで、二酸化炭素の排出状況等を審議いただいた。</p> <p>それでは、本日の議事(イ)市域における二酸化炭素排出量の再算定についてご説明申し上げます。</p> <p>こちらの議題は、第 2 回の中でご検討いただいた部分だが、前回の審議会の中では、統計値が遡って公表されたことによって、過去のデータと数字を検討するのが難しくなったため、2018 年度までは現行の手法により算定</p> |

し、2019年度については新しい手法で算定するというように、2つの時期に分けて手法も変えて、算定及び検証をすることでお諮りをしたところだった。

しかしながら、「旧計画と新しい推計手法を並べて比較するのはかなり分かりにくい」、「統計はある程度の間隔で改定されており、そのたびに数字が変わっているものなので、それはそういうものとして捉えて、統一してデータを表示した方がよいのではないか」、「過去に出した報告書と数字が違うという意見もあるかもしれないが、計算方法が変わることはあるので、変わったと一言添えておけば、説明として十分ではないか」等の意見が審議会の中であった。

また、資料4「環境白書」のP.33に過去の排出量の推移等載せており、こちらとも整合性を図る必要がある。審議会での意見と環境白書との整合性、この2つのことから、排出量について改めて判定を行いたいと考え、議題として検討いただければと思う。

この再算定については、第3期実行計画（現行計画）の推計手法により算定するものとして、推計手法は現行のものを使用し、統計値は最新のものを代入して算出・検証を行うものとする。なお、第2回で審議いただいた時には、実態の数を入れるのではなく、計算（係数）により補正を行っていた。

具体的には、P.2以降に示している。今回再算定したものを（新）、前回の審議会でお諮りしたものを（旧）として、新旧を並べて比較している。

（新）のグラフでは、昨年度まで出してきた従来値を棒グラフの青で表示し、このたび再算定したものを緑で示している。これにより、2019年まで途中で区切ることなく並べて比較していただくことができると思う。赤の点線が旧計画の目標である。2007年度比で3.8%削減のラインであり、目標達成は少し難しい状況になっている

| | |
|------|---|
| | <p>が、2019年は2018年と比べて減少しているということで、上の文章は、前回指摘いただいたように、ソフトランディングな記載方法に修正した。</p> <p>P.4～5は、先程説明した棒グラフを表でまとめたものである。部門別に従来値、再算定値というふうに数字が並べてある。下の折れ線グラフは、部門別の排出量の推移である。前回、色が統一されておらず、統一するようご指摘をいただき今回は統一しているため、新旧並べると色がバラバラになってしまっているところではある。考察では、民生部門が長期的には増加傾向で、運輸と産業は横ばいという説明をしている。</p> <p>続くP.6～7の円グラフでは、2007年と2019年の部門別の排出量の割合を示している。グラフの色を統一したため、新旧で比較した時に少し見づらいかもかもしれないが、やはり民生部門（民生家庭と民生業務）で約6割を占めていることが分かる。</p> <p>以上、環境審議委員の皆様には、毎度の検討になり大変恐縮ではあるが、もう一度よろしくお願ひしたい。</p> |
| 新保会長 | <p>ただいま事務局からご説明のあった現行計画の修正についてということで、ご質問等を受けたいと思う。</p> |
| 金森委員 | <p>まず確認したいのだが、今日ご説明いただいた資料、ここが新しいところで、こちらが古いものと示していただいたのは、今作ろうとしている温暖化対策実行計画に載せる文章ということでよいか。</p> |
| 事務局 | <p>ご指摘のとおり。</p> |
| 金森委員 | <p>お配りいただいた資料2のP.2に二酸化炭素排出量の推移という棒グラフがあるが、これが計画に載る可能性があるならば、指摘しておこうと思う。</p> <p>旧計画の目標を赤い点線で書いてあるが、位置が少しおかしい。544千t-CO₂あるいは545千t-CO₂という数字であれば、500と600の真ん中よりも下に線がなくてはならないが、真ん中よりも少し上にあるので、基準年</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>から見て減らしているという線に見えなくなってしまうている。少し見えづらいかもしれないが、線を太くしてしまうと分かりづらくなるので、赤の点線を少し細くして、位置を真ん中よりわずかに下に行くぐらいのところにきちんと書いた方がよい。</p> <p>それから、旧計画や旧基準年、従来、再算定等、新しいことと古いことを、さまざまなケースで使い分けている言葉が混在していて少し分かりづらい。例えば、第何期計画のように、具体的に数字等で書いてしまった方が混乱しないのではないかと思う。数値の見直しもあり、今回は複雑な状況になっていて混乱を引き起こしやすいので、なるべく明確に、その単語を見たら判断できるような言葉を使用した方が分かりやすい。</p> |
| 和田委員 | <p>今回配布された資料2のグラフを、第2回環境審議会の資料1で出されたグラフと差し替えるということによろしいか。</p> |
| 事務局 | <p>前回の資料を差し替えるというイメージで作成している。</p> |
| 和田委員 | <p>もう1点確認させていただきたいが、第2回環境審議会の資料1-2のP.5の「1人当たりの排出量を見てみると…」と「東京電力エナジーパートナー株式会社の二酸化炭素排出係数(基礎排出係数)」というものに関しては、そのまま掲載する予定ということによろしいか。</p> |
| 事務局 | <p>今ご指摘いただいた部分については、前回の環境審議会の中でも、入れた方がよいという意見と、少し分かりづらいという意見があったので、新しい計画へは、スペースを見ながらコラム的に入れる予定である。また入れるのであれば、前後となじむような書き方で、どういった関連があるのかということを知りやすく記載する必要があると考えている。</p> |
| 和田委員 | <p>入れる際は、お示しいただければと思っていてよろしいか。</p> |

| | |
|------|--|
| 事務局 | その予定である。最終的に全部をつなげた際に、スペースを見ながら、かつふさわしいものであれば、そこに載せて参りたい。 |
| 横田委員 | こういった分析の修正ということ踏まえて、約半年程遅れたということなのですが、早急に二酸化炭素排出量月別数量を公表して、市民とともにこれを見守る必要があると思う。二酸化炭素の削減目標達成のための細分化した施策を今後は見守っていきたいので、ぜひ早急にゴミの焼却量の公表をお願いしたい。クリーンセンターが公表している焼却量によると、10月と11月はゴミの焼却量が減少しているが、一方でプラスチックの混入量が非常に増加しており、12月と1月が非常に心配である。 |
| 伊原次長 | 今の前段の部分については、恐らくクリーンセンターのお話かと思われる。クリーンセンターからも説明があったと思うが、可能な限り早急に公表していくという話は伺っている。 |
| 佐藤委員 | P.2のグラフの2007年度の再算定値が緑色で縞模様になっていることには、どういう意味があるのか。また、グラフがカラーの場合がいいと思うが、モノクロで印刷する場合もあると思う。例えば、どちらかを濃い色にしてどちらかを薄い色にする等、モノクロ印刷にも対応できるものとした方がよい。 |
| 事務局 | 2007年の棒グラフの緑が縞模様になっているところは、基準年度の意味を込めて差別化してあるが、分かりづらいため、少し説明書きをしたいと思う。モノクロ対応については指摘の通り、モノクロにした時に見やすく遜色ないように配慮していきたいと思う。 |
| 新保会長 | P.4の「二酸化炭素排出量の推移」の表だが、部門や下部についている色に意味がない。従来値と再算定値の違いを出すために従来値を斜体で書いているが、カラーを考えたなら斜体ではなく、再算定値の方に薄い色をつけた方が、デザイン的には良いのではないか。斜体はあま |

| | |
|---|--|
| | <p>り使わないので、再算定値の方をゴシックとか太字で表した方が良くはないかと思う。</p> |
| 和田委員 | <p>今新保会長がご指摘した表について、下のグラフと対応するのであれば、上の表にも下のグラフと対応する色をつけた方が分かりやすいと思う。</p> |
| 新保会長 | <p>P.2の3行目の「推計方法等が変更され」と記載されているところについて、何がどう変わったのかを括弧書きでもページ下部に注釈でも良いので、どこかに説明があった方が良く。</p> <p>資料2の頭書き(P.1)の下3行について、書いてあることは読めるが、「再算定にあたっては」というのが主語だとすると、述語がよく分からない。「現行計画の推計方法により算定するものとし」で1つあるが、「最新の統計値を用いて算出・検証を行うものとする」というところで述語が2つになってしまっていて分かりづらい。</p> |
| 新保会長 | <p>他に議題(イ)についてご意見がなければ、修正も含めてご承認いただけたということで、次の議題に進みたいと思う。</p> |
| <p>(議題ウ) 二酸化炭素排出量の将来推計・削減目標、目標達成に向けた重点施策について(資料3)</p> | |
| 事務局 | <p>議題(ウ)「二酸化炭素排出量の将来推計・削減目標、目標達成に向けた重点施策について」、資料3のP.1~2は考え方について記載しており、大きく3つの点についてまとめた資料となっている。P.3以降が素案である。</p> <p>P.1の「1. 将来推計」について、流山市は、2018年に将来の人口推計を行っており、2027年をピークに、緩やかに人口減少すると推計がされている。こちらを使用して二酸化炭素排出量の将来推計を行った。</p> <p>何も対策を取らなかった場合・特段の追加対策がない場合(以下「BAU」という。)を想定して、2013年を基準として2030年までを推計した。</p> <p>なお、それぞれの部門の算出方法の特色をP.1の中ほ</p> |

どに書いている。業務部門・家庭部門・廃棄物部門・運輸部門（自動車）は、人口に関連して数字が変動するものであり、産業部門は、人口とは関係なく、エネルギー消費のエネルギー需給の見通しを勘案して算出しているものである。また、運輸部門（鉄道）については、現状とあまり変わらず推移するものと想定して推計を行った。

「2.削減目標」について、第1回の環境審議会で、計画期間・目標年度・基準年度は、国の計画を意識したものとするというところで、国と同じ目標としたところである。このことから、数値の目標も、国の目標と整合性を持たせたいと考えている。つまり、短期目標は、2030年度に2013年度比46%削減、長期目標は、2050年度に二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すものである。

P.2の「3.目標達成に向けた重点施策」では、重点施策について、将来像と基本方針は第3期計画を基本とし、状況が変わっている部分については必要な見直しを行っていききたい。

「流山市が目指す将来像」については、2050年度までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す。変更点としては、第3期までは「低炭素都市ながれやま」というフレーズを使用してきたが、近年は「低炭素」ではなく「脱炭素」であると考え、「脱炭素都市ながれやま」というフレーズを提案したい。

「基本方針」は、市民の皆様や事業者の方の意識・行動改革による実践の行動を活用するというところで「ソフトパワーの活用」ということで提案したい。

「重点施策」について、右下の表で2019年度の部門ごとの二酸化炭素の排出量及び部門における比率を示したものである。民生家庭部門、民生業務部門における電力、運輸部門における自家用乗用が、かなり大きなウエイトを占めていることから、こちらを中心に、次の5つの分

野を設定したいと思う。

①市民・事業者との協働による省エネルギー生活への転換の推進

②再生可能エネルギーの活用

③環境負荷の大きい自動車からの転換

④廃棄物の発生抑制と資源循環

⑤緑地保全と都市緑化による二酸化炭素吸収減対策

第3期計画を引き継いで、市民に身近な廃棄物についても重点的に施策としていくことが、全体的な推進に繋がると考えている。

P.3からは素案である。「2.将来推計」では、先程説明した手法により、BAUの将来推計を実施した。

P.3の棒グラフについて、赤の点線を境に、左が現況、右が将来推計となっている。特段の対策を行わなかった場合、2027年をピークに少し下がるということで、2030年度はこのような数字になっている。

なお、環境省が作成している算定マニュアルが2021年3月に改定されているため、点線の右側と左側で算出のための計算式も変えている。第3期計画と第4期計画では算出方法が少し異なっている。

P.4では、P.3の棒グラフを表にまとめたものと、部門ごとに折れ線グラフにしたものを掲載しており、部門ごとの傾向がお分かりいただけるかと思う。

P.5の「3.削減目標」では、先程の考え方で整理した通り、国と目標を共有して対策を講じていくということで、四角の中に短期目標を2013年度比46%削減、長期目標を二酸化炭素排出量実質ゼロということでまとめている。

P.6では、P.5までに言葉で示してきた内容をグラフで表したものである。2025年以降のオレンジ色の部分は、2030年度の目標（2013年度比46%削減）達成に向けて、削減をしなければならない二酸化炭素排出量を示してい

る。

P.7「3.目標達成に向けた取組み」では、考え方のところでも整理したが、「1.流山市が目指す将来像」は、「脱炭素都市ながれやま」の実現を目指す。

「2.基本方針」は、市民及び事業者の皆様のを「ソフトパワー」と位置付けて、貴重な財産を生かして脱炭素都市ながれやまの実現を目指していく。

「3.施策体系」は、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）と連携をし、法が定める施策の分野に対応する形で、5つの施策を設定する。P.8に、今までの考え方が簡単にまとめられている。

P.9「4.重点施策」について、考え方のところでも確認していただいたが、2019年度の二酸化炭素排出量の表を元に、排出量の多い民生家庭部門・民生業務部門の電力、運輸部門の自家用乗用車についての施策を重点的に進めていきたい。

P.10には重点施策5つと、プラスの適応策をまとめた。こちらは、第3期計画の骨組みを引き継いでいるものになるが、少し変更を加えていることから、第3期からの変更点について説明する。

重点施策②「再生可能エネルギーの活用」については、項目自体は変わっていないが、必ずしも全ての方々が再エネ設備を利活用できるとも限らないことと、再エネ由来の電力もかなり流通するようになってきたことから、説明部分について、「太陽光発電設備を軸とした再エネ設備」と「再エネ由来の電力への切り替え」の記載順を入れ替え、「再エネ由来の電力の切り替え」を前に持ってきている。

重点施策③「環境負荷の大きい自動車からの転換」についても項目自体に変更はないが、こちらも時勢を勘案し、「徒歩・自転車・公共交通」と「電気自動車の普及」の記載順を入れ替え、「電気自動車の普及」を前に持って

| | |
|------|---|
| | <p>きている。</p> <p>その他については、基本的に第3期を引き継いでいる形である。具体的な施策については、次回の審議会で検討したい。</p> |
| 井上委員 | <p>目標については、基本的には妥当だと思う。市長が委嘱式の際に、流山市が他の自治体に対してビハインドするのは当然駄目で、リードしたいという発言をされていたので、それからすると、最低でも国と同じ2030年度に46%削減、2050年度に排出量実質ゼロを目指す必要がある。従って、流山市の目標も、「低炭素」ではなく「脱炭素」ということで、将来像についても妥当であると思う。</p> <p>しかし、先日のテレビ放送でも言っていたが、流山市の人口増加率が5年連続でトップである。国全体で見れば人口は減少しているが、流山市は増加している。国の場合は、人口減少というある種のアドバンテージがあるが、流山市の場合は逆に増加しているため、その分だけ当然負荷が増えてくる。新しく流山市に来る人はウェルカムだが、そういう人にあまりゴミを出さないように言うわけにもいかないの、市民のご理解をいただかないと前に進まないということもあろうかと思う。</p> <p>国と同じ目標を持って取り組んでいかなければならないが、民生部門が増えていることから分かるように、国は人口が減っていく一方で流山市は増えていくというギャップは、結構大きいのではないかと思う。その辺を抑えた議論が、計画を作る上でも必要ではないかと思う。</p> <p>それから、少しテクニカルな話になるが、P.2の基本方針において「ソフトパワー」という単語が書いてあり、その後ろに括弧で「市民や事業者の意識・行動改革による実践行動」と記載されている。唐突にソフトパワーと出てくるが、ソフトパワーには他にもさまざまな意味があるので、この計画では「市民や事業者の意識・行動改革による実践行動」のことを「ソフトパワー」と呼ぶと</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>いうことを定義づけるため、記載を「市民や事業者の意識・行動改革による実践行動（ソフトパワー）」のように前後逆にした方が良い。</p> <p>P.10には、ソフトパワーという言葉が出てこないが、ここにソフトパワーという単語を入れたほうが、少しインパクトが強くなるのかと思う。</p> |
| <p>金森委員</p> | <p>以前の資料はあまり覚えていないが、資料3で急に西暦と和暦が全部併記になっていて読みづらいので、どちらかに統一した方が良い。併記するとしても、最初のみで良いと思う。</p> <p>資料3のP.1で各部門の算出の方法についてご説明いただいているが、これが何を言っているのか分からない。予想することはできるが、私の想像が正しいとすると、数値はこうなるはずがないという違和感が残ったままなので、どのようにBAUを算出されたのかご説明いただきたい。</p> <p>BAUの算出方法について説明を受けてからでないと話が進まない気もするが、P.4で部門別の二酸化炭素排出量を算定していただいております、こちらについてもいくつか疑問がある。</p> <p>まず、産業部門の数値が突然下がっているが、これは算定方法が変わったからということか。</p> <p>それから、家庭部門の二酸化炭素排出量が約200千t-CO₂から約300千t-CO₂と大きく増加し、約1.5倍になると予測されている。先程の計算方法を教えていただきたいということと関係するが、人口が1.5倍まで増加することはないと思うが、なぜこの推計値は1.5倍となったのかをお伺いしたい。</p> <p>P.5削減目標について、意欲的な目標にすることについて良いとは思いますが、しかし井上委員のご意見にもあったように、人口が増加する中で、他と同じ目標にすることは、その負担感は増すので、私個人としては、国</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>と同じ 2030 年度に 2013 年度比 46% 削減という目標を睨みつつも本日決め切らず、実際にさまざまな対策を積み上げてみて、積み上げることができればこの目標とするのが良いと思う。2030 年までにこの目標を達成するのは、かなり難しいのではないかと考えているので、ここは次回まで確定しなくても良いと思う。目標だけすごく高いものを掲げて、結局全然達成できませんでしたというのでは、全く意味がない。人口が増えている自治体は苦しくなるので、実際どういう状況であるかということも踏まえてから、次回に数字は確定していくという流れでいいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>西暦と和暦が併記されていて見づらい件については、ご意見としてお預かりし、事務局でより良い方法を検討する。</p> <p>数値については、事務局補助に算出を依頼しているため、事務局補助に説明をお願いしたい。</p> |
| 事務局補助 | <p>まず家庭部門が増えている件について、これは 2013 年度比で人口がかなり増えるという予測があったことから、それが反映されていると考えていただいて良い。</p> <p>産業部門については、国が作成しているエネルギー消費統計の将来推計が反映されているとお考えいただければと思う。</p> <p>P.3 のグラフをご覧いただきたい。グラフの 2019 年と 2020 年の間に少しギャップがある。2019 年度以降の将来推計は、こちらからご提案している新しい推計方法で算出している。現況についても新しい推計方法で算出した場合、実は 2019 年度の数値はもう少し低い値となる。そこからスタートして 2027 年度付近まで直線的に増加していくグラフだったが、事務局で検討した結果、すでに数値が公開されている現況部分について、ここで数値を改めると混乱が生じるのではないかという意見があったようで、現況部分については従来 of 算定方法で算出する</p> |

| | |
|-------|--|
| | こととなった。そこでギャップが生じてしまっているというところである。 |
| 金森委員 | 2019年度も新しい推計方法で算出すると、家庭部門の数字が高くなるということか。 |
| 事務局補助 | 少し高くなる。 |
| 金森委員 | つまり、実際は1.5倍にはならないという理解でよろしいか。 |
| 事務局補助 | 1.5倍とおっしゃったのは、P.4の表の数字か。2013年度基準でいくと、人口が2013年からはかなり増加するという予測は背景にある。 |
| 金森委員 | 2019年度が201.1千t-CO2という数字に対して、2030年度が285.9千t-CO2という数字になっていて、かなり増加しているように見えるが、それは2019年度の推計方法を新しいものに合わせると、もう少し高くなるという理解でよろしいか。 |
| 事務局補助 | その理解で問題ない。 |
| 金森委員 | P.1に記載された推計方法がどうしても分からないのだが、産業部門について、「エネルギー需給の見通しの増減比を適用し」とあるが、これは産業の全部門の増減比を流山市に当てたという理解でよろしいか。 |
| 事務局補助 | ほぼ製造業が占めているため、国が出している製造業の増減比の見通しを当てはめたということである。 |
| 金森委員 | 流山市は、あまり温室効果ガス消費型の産業等はないと思うが、そういうところの影響も出てしまっているということか。 |
| 事務局補助 | 鉄鋼等その辺りはないが、いわゆる業種別の見通しではなく、大まかに産業部門全体に当てはめた。 |
| 金森委員 | この産業部門の推計結果がエネルギー需給見通しから来ているということは、電力の二酸化炭素の排出原単位は、2030年に向けて今より大幅に下がっているという想定のものであるか。 |
| 事務局補助 | 想定していない。あくまでエネルギーのみ変化すると |

| | |
|------|---|
| | し、排出係数は現状を用いて推計した。 |
| 和田委員 | <p>1点目は、P.3の排出量推計のグラフについて、見出しが「2030年度までの排出量推計」となっているが、その前に「特段の対策を行わなかった場合の」と入れないと、これが何の推計を示しているのかわからないのではないかと思う。</p> <p>2点目は、P.4の上の表について、赤色で示した数値が減っている理由の説明が必要ではないかと思う。それからP.3とP.4のグラフの赤色の点線の意味合いについても、「国の算定基準が改正されたため、ギャップが生じている」という説明をどこかに入れる必要があるのではないかと思う。</p> <p>3点目は、P.5の長期目標について、「実質ゼロとすることを目標とします。」と記載されている、この「実質ゼロ」についての説明が必要ではないかと思う。計画内のここより前のどこかに記載してあれば良いが、本当の意味での実質ゼロなのか、又はパリ協定のプラス1.5度以内のことを言っているのか、そのあたりがはっきりしていないと感じる。</p> <p>4点目は、P.6のグラフについて、吹き出しの表記が紛らわしい。左側の吹き出しには、「46%削減 335.4千t」と記載されているが、この「335.4千t」は、赤色のラインの値を示していると思うので、削減量は「285.7千t」になると思う。一方、右側の吹き出しには、「2030年度予測値からは382.3千t削減」と記載されており、こちらの数値は削減量が記載されている。左側はラインのことが書いてあって、右側は削減量が書かれていて分かりづらい。</p> <p>恐らくこの赤色の横線は、335.4千tを示しており、つまり、何とかして2030年に達成したい数値を表しているグラフなのだと思う。もしそうであるならば、オレンジ色の部分は削減しなければならないものなので、どう</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>いうふうに下げていくのかということを検討するためにとっても大切。初期に勢いをつけて下げるのか、勢いがついたら最後に下げていくのか、そういうことも勘案して考えていかなければならないと思う。</p> <p>5点目は、P.8の下に空いているスペースに、P.3やP.4のグラフや表に対応する、施策によって期待される各部門の今後の削減値を記載しておいた方が良いのではないかと思う。335.4千tまで削減するための途中経過の目標を示した方が取り組みやすくなる。</p> |
| 事務局 | <p>グラフの見せ方や説明が必要な部分ということについては、概ね対応できるかと思う。</p> <p>5点目に指摘いただいた、部門ごとの削減値を記載しておいた方が良いのではないかという件について、実は、第3期計画には削減値が記載されていた。これについては事務局の中でもさまざまな意見があり、それぞれの積み上げがまだ済んでいないというところもあるが、重点施策を示すのが、本日の資料で言うと資料3のP.10なので、施策を説明する前のP.8に入れてしまうと、流れとして前後するのではないかと考え、現在は入れていない状態になっている。どのように示した方が話の流れとしてスムーズなのか、また、市民の方がわかりやすいかという点を含め、皆様には審議いただきたいと思う。</p> |
| 新保会長 | <p>P.5の「実質ゼロ」について指摘があったかと思うが、実質ゼロというのは具体的にどのような状態か。</p> |
| 事務局 | <p>これもクリアに説明する必要があると思うので、しっかりとお示しできるよう準備したい。</p> |
| 井上委員 | <p>一般的な市民から見ると、あまり細かく書かれると、読む気がなくなってしまうというリスクもあると思う。市民に、どのようにインパクトを与えるかという観点の方に重点を置かないと、せっかく良い計画を作成しても、専門家はそれで納得されると思うが、市民は、例えば実質ゼロがなんだとか考えだしてしまったら分からなくな</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>ってしまうと思う。専門家向けに吹き出し等で細かく書くのは、それはそれでいいと思うが、実質ゼロだから二酸化炭素を出すなというイメージを与えた方が、市民にはインパクトがあると思う。民生部門からの排出量が多いので、市民が、これは協力しなければならないと思える形に持っていかないと、結果的に何の成果も出ない。</p> <p>「実質ゼロ」は国が示した目標であり、再三新聞等にも掲載されているので、敢えてここで細かく書くと、国と違うものなのかという疑念をもたれるリスクがあるのではないのかと思う。</p> |
| <p>金森委員</p> | <p>読みづらいのはおっしゃる通りだが、計画は計画としてきちんと作らなければならないと思う。ただし、これを渡されて読むかと言ったら間違いなく読まないと思う。確か第3期計画では、市民に読みやすい形で、A3サイズ1枚程度のパンフレットのような概要版を作成されたように記憶している。今回も、そういうものを一緒に準備しておく必要があると思う。</p> <p>P.4について、先程の説明で、現況と推計の計算方法を変えていることで、数字が飛んで、急にガクンと動いているように見える部分があるということはわかったが、それは大丈夫か。話をひっくり返したいわけではないが、計算方法が異なることで大きく数字変わっている基準年と比較するのは、少し危ないのではないかという気がしている。</p> <p>あともう1点見せ方について、この上の説明（P.1の算出の方法）を読むと、2030年度を計算して、2027年度で切り換えているとあるが、あとは基本的に繋いだというふうに読める。計算をしていないところをポツポツと示すところや、計算していないところ同士を繋いでいるところに違和感がある。また、この大きく増減があるように見えてしまうところ等、実際そういう変化が起きるわけではなく、あくまでも計算方法の変更によって、こ</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>こちらの都合で変わるところなので、その辺誤解を与えないために、事務局がどういうスタンスで見せたいのかということを中心に整理して見せた方が良いのではないかと思う。</p> |
| 事務局 | <p>計算方法を切り替えているところで大きく変わってしまっているところについては、どういう見せ方が可能なのか等、事務局補助と事務局で話し合い、皆さんに疑問を持たれないようもう一度考えたいと思う。</p> |
| 福山委員 | <p>本日初めて参加したので、よく分かっていないのだが、この資料はどこに出すものなのか、それがよく分からなかった。</p> <p>プラスチックごみが多いのが11月・12月頃という話がとても気になった。「減らしましょう」と言うが、何をどうやって減らせば良いのかが分からないので、具体的にどうやって減らすのか等が必要で、数字だけで減らしましょうでは、分かりにくいと思う。</p> |
| 事務局 | <p>現在、皆様に審議いただいているものは、素案の形に全てまとめ、パブリックコメントという形で市民等に意見をいただくものである。最終的には市の計画として、市民や事業者等と一緒に取り組む目標として示すものになる。</p> <p>2点目のプラスチックごみをどのように減らしたら良いのかということについては、本日の資料に記述はしていなかった部分ではあるが、横田委員がされていたお話についてということによろしいか。何をどのように減らしていくのかという点については、全てを細かく記載することはできないが、次回の審議会の中で、具体的な方法を入れていきたいと思っている。</p> |

| | |
|-----------|--|
| 新保会長 | <p>今作っている計画を、全部を精読してもらえないことは少ない気がする。</p> <p>10月に出た地球温暖化対策計画の閣議決定にしても、何十ページにもなり、読むだけでも大変だ。</p> <p>日々の啓発のためには、チラシを作ったり、勉強会やイベントを実施したりしていくしかない。それは計画の中に盛り込むことではなくてノウハウになってくる。計画は後世に残るものであり、事務局も何年か経つと担当が変わってしまうため、細かいことがあっても書いておいた方がよい。10年、20年、30年先を見据えた計画を作るため、その時の部課長や担当者、環境審議会が、その時のベストを尽くしたものを作って行くことが必要。市民啓発とは区別して考え、計画はきちんと作っていかなければならない。</p> |
| 新保会長 | <p>終了時刻が近づいてきたので、次の議題に移りたいと思う。</p> |
| (議題エ) その他 | |
| 事務局 | <p>今後のスケジュールについて、今年度中に少なくともあと1回は、環境審議会を開催したいと考えている。また、登録情報に変更がある場合は、お手元の書類を修正いただき、今後変更があった際は事務局までご一報いただきたい。初めて環境審議委員になられた方には、登録関係の書類も提出いただきたい。</p> |
| 大島部長 | <p>非常に熱の入った議論をいただき感謝申し上げます。</p> <p>区域施策編は、これから地球温暖化対策を進めていくための根源的な指標になるので、新保会長がおっしゃったように、書くべきものは書いた方がよいと思っており、多少分かりづらいものは、私ども事務局の方で、広報ながれやまへの掲載や、読みやすいパンフレット等の作成を通じて、市民の皆様にご理解いただけるように努めていくべきものである。どうやって啓発するかということと、どうやって根源的な計画を定めるか、そこを二つ藪</p> |

| | |
|------|---|
| | <p>睨みしながら進めていければと思う。</p> <p>本日皆様にいただいたご指摘は、事務局として非常に重く受けとめている。これからもよろしくお願ひ申し上げます。</p> |
| 新保会長 | <p>資料 3 の審議事項については、さまざまなお意見いただいたことを加味してご承認いただいたということで、本日の審議会は終了とする。</p> |
| 閉会 | |